



1998年に開設したつくばテクノセンター(写真右上)。  
そこでは、新たな環境対策装置の研究・開発(中上)や航空宇宙製品の組立試験(左上)、レンタル製品のメンテナンスなどが行われている

「新興国市場をはじめ、環境、エネルギー、医療福祉など今後成長が見込める分野での装置開発へ積極的に取り組み、新たな市場を創出していきたい」と語る西村章代表取締役



トンネル工事用の集塵機(写真左下)や高炉などに常設される集塵機(中下)。  
独自のフィルタ構造(右下)で高い集塵力を実現した大型の集塵機は、幅広い分野で活用されている



文/倉本さおり 写真/猪又直之 写真提供/株式会社流機エンジニアリング

集塵・脱臭・除湿・水処理にかかわる環境対策装置の開発・製造などを行う株式会社流機エンジニアリング。同社の製品が利用されるマーケットは、建設から航空宇宙などに至るまで、多岐にわたる。

その躍進を支えるのは、1979年から30年以上にわたって改良・開発に取り組む、トンネル工事用の集塵機だ。トンネル内は湿度が高く煤煙が発生しやすいため、強力な風量と耐久性を兼ね備えた集塵機が求められる。しかし、それをトンネルという狭い環境下で稼働させるのは、長い間至難の業であった。例えばそれをクリアし、大型の集塵機を開発しても、実効性とコスト面での折り合いをつけることができず、競合他社は次々と撤退していく状況が続いた。

「90年代に入ると、トンネル工事における塵肺被害が、社会問題として大きく取り上げられるようになりました。まさしく時代が大型の集塵機を必要とするなか、そのニーズに合わせるべく、95年に大型の集塵機開発に踏み切ったのです。そして従来のフィ

「建設業界では買戻し特約付きの販売方式が一般的でした。しかし、これをレンタル方式にすることで、年度ごとの収支のバラツキがなくなり、安定した経営ができるようになったのです。また、顧客も初期投資を抑えることができ、メンテナンスなどのサポートもより充実して受けられるというメリットが生まれました」

この方式は建設業界にうまく

## 光陸 企業探訪 離彩

ルタの構造などを2年間かけて改良することで、これまでの20倍もの集塵力を持ち、発がん性の高い細かな粒子を取り除く大型の集塵機の開発に成功。それが、当社にとって大きな転換点となりました」と西村章代表取締役は振り返る。

この開発と同時に、同社は集塵機の供給方法を販売からレンタルへと切り替えた。

### 株式会社流機エンジニアリング

## 集塵機の開発で培った技術を軸に 環境や航空宇宙などの分野にも進出

西村 章  
代表取締役



**DATA**

代表取締役 西村章  
本社 東京都港区三田3-4-2  
設立 1977年6月  
売上高 24億6128万円  
2011年9月期  
従業員 87人(2010年9月)  
<http://www.rjuki.com/>

適合し、現在では国内トンネル工事用の集塵機レンタル市場でシェア75%を同社が占めている。

このようにトンネル工用集塵機で売上を伸ばしていったが、「当社は単なる集塵機メーカーではなく、あくまで環境ソリューションを行う機器メーカー」と西村社長は強調する。

同社の製品は、土壌汚染やダスト、イオキシ、アスベストなどに対応する環境対策装置や、ドーム球場の人工芝クリーナー、宇宙で行う耐環境試験用装置など、幅広い分野で使われている。集塵機の開発で培った技術を他の分野に活かし、そこで得た新しい知識やノウハウを、今までの技術にフィードバックしてより磨きをかける。このサイクルが、同社の技術を支え、幅広いマーケット展開へとつなげている。

今後は海外ビジネスにも本格的に乗り出す予定だ。とりわけ、日本の10倍以上の規模でインフラ整備が行われている新興国では、環境問題対策が急務とされている。同社の装置が、国境を越えて人々の生活を変えていく日も遠くない。

● 光陸離彩【こうさいりくり】色鮮やかに光が交わり、美しく輝く様子